

● 現地案内図



● 構成市町

東近江市(八日市地域、永源寺地域、
五個荘地域、能登川地域、蒲生地域)、
日野町、竜王町、安土町



● 事業主体

中部清掃組合

〒529-1663 滋賀県蒲生郡日野町北脇1番地1
TEL 0748-53-0155

● 施工監理

株式会社 日建技術コンサルタント 本社

〒542-0012 大阪府大阪市中央区谷町6丁目4番地3
TEL 06-6766-3900

● 設計・施工

株式会社 荏原製作所 大阪支社

〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島1丁目6番地20 堂島アバンザ
TEL:06-6452-6611

クリーンわたむき

中部清掃組合・日野清掃センター



循環型社会に貢献するため 最善の処理につとめます



管理者
藤澤 直広

私たちの日常生活や社会経済活動から生じるごみは、大量かつ多種多様化し、環境への影響を生じさせるとともに、資源の将来的な枯渇も懸念されています。

今日、環境に対する意識が高まる中で、ごみ処理に対しても、ダイオキシン類の規制をはじめとして、処理の高度化と多様化が要求されるようになってきました。

このたび、平成17年3月より建設を進めてきましたごみ処理施設・リサイクルセンターが、皆様方のご協力を得て完成の運びとなりましたことは、喜びにたえません。本施設は、ダイオキシン類の削減を図るなど環境にやさしい最新の技術を取り入れたガス化熔融方式を採用し、熔融までの処理を一体的に行います。また、ごみ処理の過程で発生する熱を利用して発電を行うとともに、リサイクル施設を併設し、ごみを資源として最大限に有効活用できる施設でございます。

この施設の完成により、皆様方の環境に対する意識の更なる向上と、ごみの分別・再資源化への積極的な取り組みを促し、より豊かな循環型社会が構築できることを念願するものでございます。

本施設の建設にあたり、深いご理解とご協力を賜りました関係各位に心から感謝とお礼を申し上げますとともに、今後とも本組合の管理運営に一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



施設紹介

■ 施設概要

施設名：日野清掃センター(クリーンわたむき)
所在地：滋賀県蒲生郡日野町北脇1番地1
敷地面積：33,248m²
建築面積：5,165m²
施設規模：ごみ処理施設 180t/日
リサイクルセンター 1.9t/日
建設費：8,967,000千円
工期：着工 平成17年3月 1日
竣工 平成19年3月26日

■ ごみ処理施設

処理対象ごみ：可燃ごみ、可燃性粗大ごみ
施設規模：60t/24h×3炉(180t/日)
受入供給設備：ごみビット投入扉(3基)・ダンピングボックス(2基)
ごみビット(3,600m³ 5日分) & クレーン
可燃性粗大ごみ破砕機
熱分解・燃焼熔融設備：流動床式ガス化熔融炉(熱分解炉・熔融炉)
スラグビット&クレーン
燃焼ガス冷却設備：ボイラ(蒸気条件 2.9MPa×300℃)・減温塔
排ガス処理設備：No.1・2集じん機(2段バグフィルタ)・触媒反応塔
余熱利用設備：蒸気タービン発電機(最大発電量2,800kW)
通風設備：平衡通風方式、煙突(59m)
熱分解物分別設備：磁選機・アルミ選別機、鉄類・アルミ貯留ホッパ、
不燃物粉砕機
灰出し設備：加熱脱塩素化処理&薬剤処理(混練機・造粒機)方式
排水処理設備：凝集沈殿・砂ろ過式
電気・計装制御設備：特別高圧受電設備(22kV)
自動制御システム

■ リサイクルセンター

処理対象ごみ：白色トレイ、紙バック、剪定枝
施設規模：1.9t/日
(白色トレイ 0.8t/4h、紙バック 0.7t/1h、剪定枝 0.4t/5h)
受入供給設備：受入ホッパ・供給コンベヤ(白色トレイ、紙バック)
受入ヤード(剪定枝)
破砕設備：剪定枝破砕機
選別設備：手選別コンベヤ(白色トレイ、紙バック)
再生設備：圧縮梱包機(白色トレイ、紙バック)
貯留搬出設備：ストックヤード
集じん設備：バグフィルタ

■ 公害防止基準値

	自主基準値	国の基準値	
ダイオキシン類	0.01	1	ng-TEQ/m ³ (NTP)以下
ばいじん	0.01	0.08	g/m ³ (NTP)以下
硫黄酸化物	10 (1K値 約0.9)	(1K値 17.5以下)	ppm以下
窒素酸化物	17	700	mg/m ³ (NTP)以下
窒素酸化物	20	250	ppm以下
鉛水銀	0.05	—	mg/m ³ (NTP)以下
カドミウム	0.05	—	mg/m ³ (NTP)以下
鉛+銅+クロム+マンガン	1.0	—	mg/m ³ (NTP)以下
一酸化炭素	10	30	ppm以下(4時間平均値)

※酸素濃度12%換算値



■ 公害測定データ表示盤



■ 中央操作室

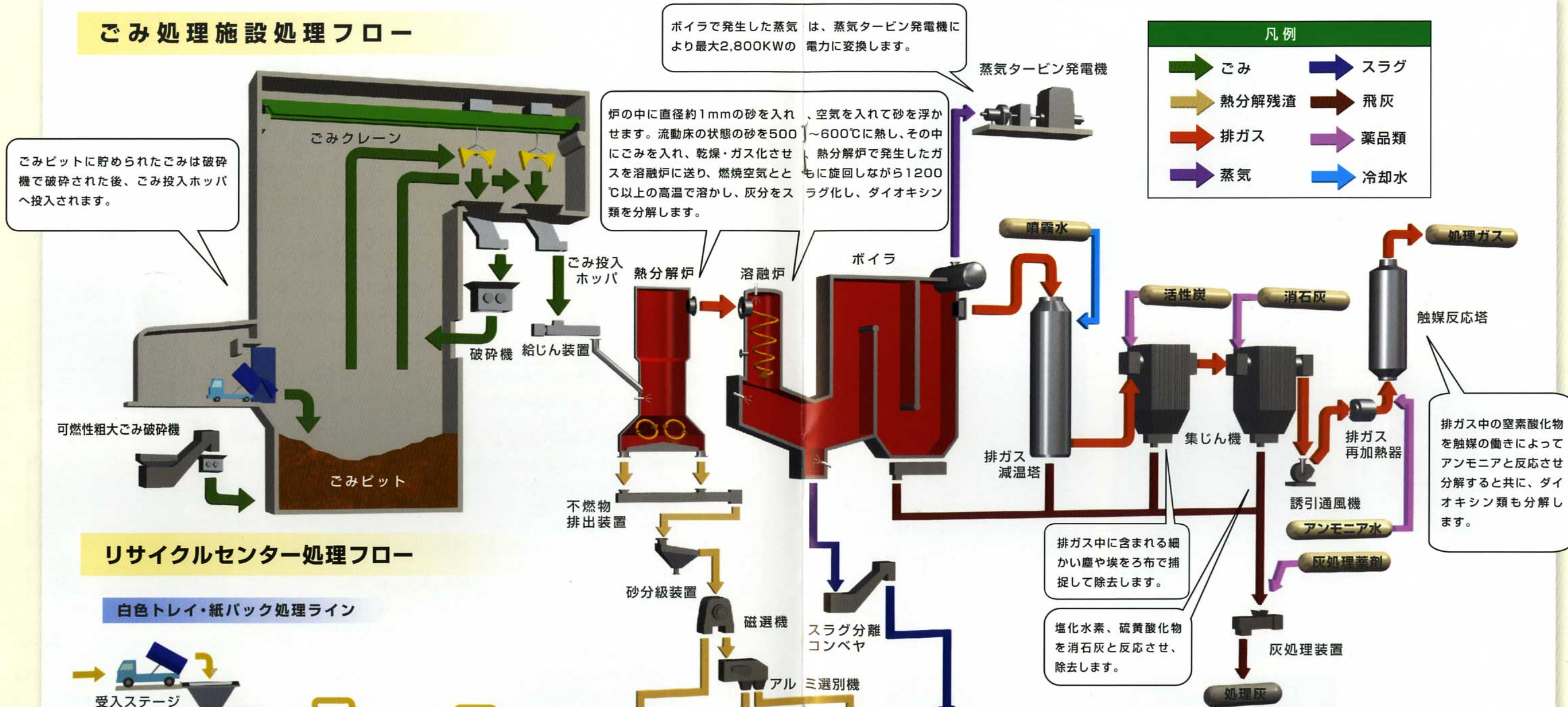


■ 施設配置図

ダイオキシン類ほか公害物質を限りなく『0』に近づけたシステムです

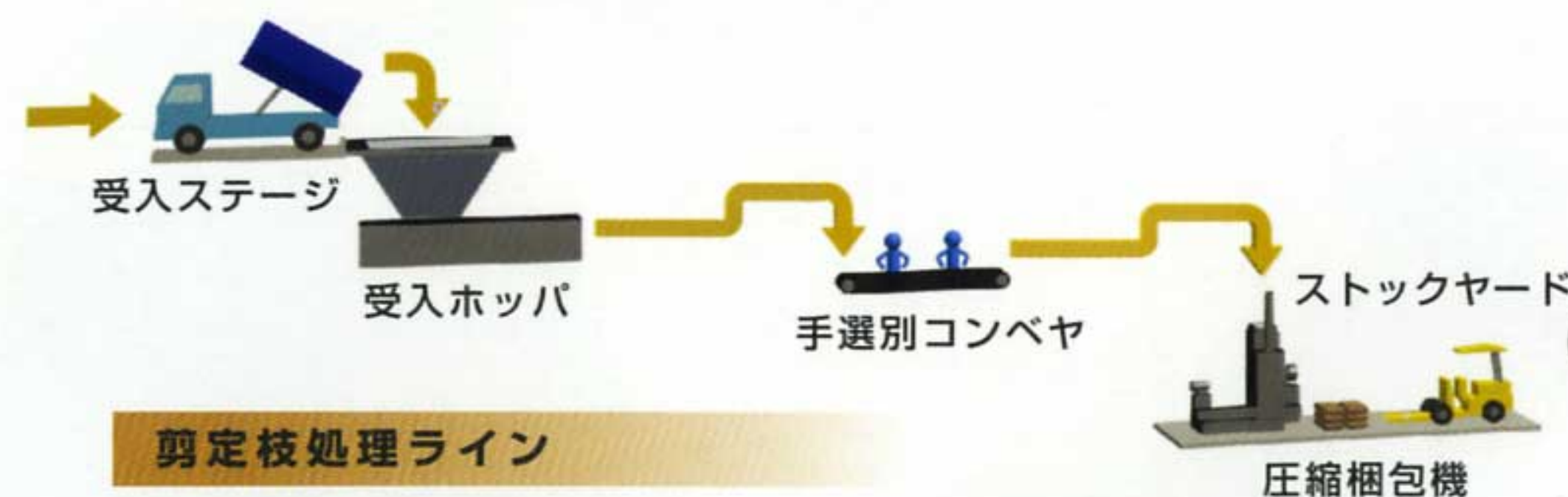
クリーンわたむき

ごみ処理施設処理フロー

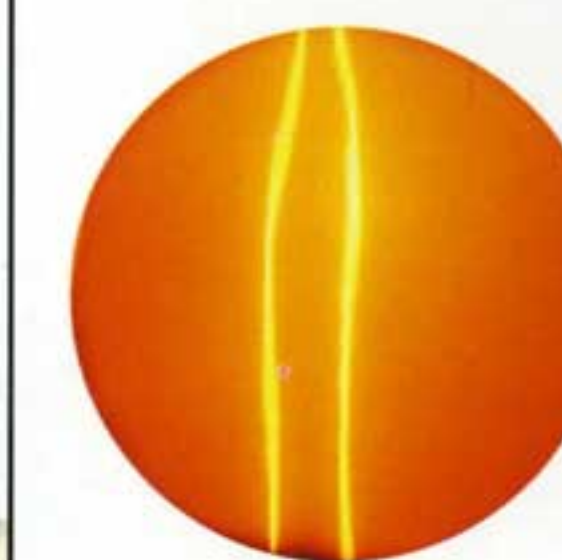


リサイクルセンター処理フロー

白色トレイ・紙パック処理ライン



熔融スラグの有効利用について



スラグ排出状況



スラグ

熔融スラグは、取扱いや運搬が容易で化学的に安定しているため、道路舗装用材などに有効に利用することができます。



インターロッキングブロック



道路舗装用材

主要設備の紹介



プラットフォーム

計量されたごみはプラットフォームからごみピットへ投入されます。



ごみピット&クレーン

ピットには5日分のごみを貯留できます。ごみはごみクレーンによりごみホッパへ投入されます。



可燃性粗大ごみ
破砕機

可燃性粗大ごみは、可燃ごみと同じ程度の大きさまで破砕してごみピットに投入します。



集じん機

No.1集じん機で細かい塵や埃、No.2集じん機で塩化水素・硫酸化合物を取り除きます。



誘引通風機

排ガスを煙突へ導きます。



触媒反応塔

排ガス中に含まれるダイオキシン類や窒素酸化合物を触媒の働きで分解します。



給じん装置

ごみを熱分解炉へ定量供給して、安定燃焼を図ります。



熱分解炉

熱分解炉へ供給されたごみは500~600℃で熱分解され、熔融炉へ送られます。



熔融炉

熱分解ガスと空気を混ぜて1200℃以上で燃焼させ、灰分はスラグになります。



灰処理装置

重金属が溶出しないように飛灰を薬剤と混練・造粒します。



スラグピット
&クレーン

スラグをピットに貯留してクレーンで搬出します。



磁選機

熱分解炉下から排出された残渣の中から鉄分を回収します。



ボイラ

ごみを燃焼した際に発生する熱で蒸気をつくります。



蒸気タービン発電機

ボイラで発生した蒸気を利用してタービンを回し、発電機により最大2,800kWの電気をつくって施設内の電力に使用します。



排ガス減温塔

ボイラを出た燃焼ガスに水を吹き込んで約160℃まで冷却します。



アルミ選別機

熱分解炉下から排出された残渣の中からアルミ類を回収します。



圧縮梱包機

白色トレイを包装、紙バックを圧縮梱包します。



剪定枝破砕機

剪定枝を細かく砕いて木材チップにします。